

上下町商工会旧館 (旧上下警察署庁舎)

昭和5年落成 木造2階建 寄棟造 鉄板葺 建築面積 101.08 ㎡

木造2階建て、わずかにアール・デコ風の味わいを持った洋風の建物である。外観は塗り込まれて、旧状を見せず、内部は1、2階とも内装を新材に変更されているが、全体的に保存良く、空間的には、おおむね旧状を保っている。

切妻造り平入りで、正面中央部に切妻の破風を見せた塔屋を乗せているが、塔屋部は全面的に改装されており、旧状を推測する手がかりがない。全体的に建ちが高い建物である。外観の壁面は、現状では、新たに塗装を施し全体を塗り込んでいるが、旧状は下見板張りであったものと推測される。窓の現状は、アルミサッシに替えられているが、2連1対とした縦長窓であり、上げ下げ窓であったと思われる。1、2層の窓の間の壁には中央に鋳物の飾り金具をはめ込んだパネルを施している。

正面ポーチの両側には、厚い袖壁状の張出を作り陸屋根を乗せているが、開口部には練り型のついた下がり壁を施している。1階が執務室及び署長室、2階は執務室及び会議室であった。内装は、1、2階とも、堅板張りの腰壁を除き、改装されているが、部分的に残る痕跡から、旧状は、壁面、天井とも漆喰塗りであったことが知られる。

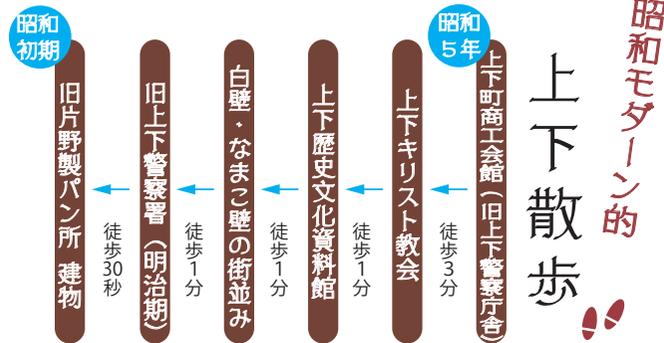
1階平面の旧状は、正面入り口を踏み込むと、奥行1.5m程、幅6m程の土間があり、これに面して東の所長室側に、土間と執務室を隔てて幅1.8m、高さ70cm弱の蹴込みのあおり戸2枚が付いている。これに続いて、幅45cm程のカウンターが西へ延び、土間の端部でL字状に折れて、北面の玄関側の窓下まで付いていたものと考えられる。また、執務室後部南面の壁の西端に外部へ通ずる扉がついていた。背面の付属施設との連絡通路は、扉の枠がそのまま残されており明瞭である。階段下の物置内部に旧状をよく残している。

2階の諸室は内装の変更のみで、部屋構成に変更はないものと思われる。

(参考文献 『広島県の近代化遺産』 広島県教育委員会)



上下町商工会旧館
旧上下警察署庁舎



昭和モダンの
上下散歩

国登録有形文化財

第三四〇一一五号

上下町商工会旧館

(旧上下警察署庁舎)



車

中国横断道 尾道松江線 世羅 IC から約 20 分
山陽自動車道 三原久井 IC から約 45 分
中国自動車道 庄原・三次 IC から約 40 時間

JR

JR 福塩線上下駅下車 福山駅から約 1 時間 30 分
三次駅から約 1 時間

高速バス

広島バスセンター発「ピースライナー」
「上下駅前」下車 約 2 時間

上下町商工会館は
JR 上下駅から徒歩 1 分 (有料駐車場有)

お問い合わせ

上下町商工会 広島県府中市上下町上下 883-1
TEL 0847-62-3504 www.hint.or.jp/~jyoge/

昭和モダーンは上下を語る

当時それは最新モードだった

昭和5年(1930)7月4日の上下警察署の落成式は盛大なものだった。当時の新聞によると「午前十時より落成式を挙行し本縣知事代理ほか官民多数の臨場ありて盛大に終了、それより高等女學校講堂において宴會を開かる、來會者三百餘名盛會であつた、この日町内は朝來各種の催し物多く近來稀な人出で大いに賑うた」とある。

日本では昭和初期の一時期、アール・デコ様式が流行したが、この新庁舎にもその影響が見て取れる。後に「昭和モダーン」と称される1920～30年代における和洋折衷の市民文化が花開いたまさに絶頂期に、上下警察署は建てられた。新庁舎新築移転に伴う総工費は約3万円の一大事業であり、驚くことに、そのうち約半分が甲奴郡管内の上下町・矢野村・清岳村・階見村・吉野村・領家村・田総村・上川村・甲奴村民からの寄付金だ。

昭和9年には警察の訓練の場であり、武術を学ぶ道場「武徳殿」が敷地内に建てられ、剣道や柔道に励む警官の気合の声が近所にもよく聞こえていたようだ。また昭和20年の原爆投下直後には、原爆被災者の一時救護所にもなった。



昭和5年7月4日の上下警察署落成式の様子。祭り好きな土地柄らしく警察官に扮した仮装あり、歌舞伎役者よろしく決め込んだ元胡町内会の「白波五人男」などが催され、賑やかに繰り広げられた。

山の中の一大金融街 思惑ひしめく上下に警察署あり

上下の警察署の歴史は古い。明治7年2月に上下村の吉井寺に警察官の前身である邏卒屯所が置かれ、甲奴郡一円を管轄したのが始まりで、明治19年11月に上下警察署に昇格した。明治・大正期の警察署(明治12年7月新築)は、金融業で財をなした豪商屋敷が立ち並ぶ金胡の通り沿いにあり、2階建ての屋根に火の見櫓と半鐘を備え、時代劇から抜け出たような風貌を今も見ることが出来る。ここは警察黎明期の警察署舎と昭和初期の警察署庁舎が現存する稀有

な町なのだ。

『金持ち』の多い上下には、商売人が集まり芸者検番も多く、甲奴郡唯一の繁華街を形成していた。上下警察署庁舎背面には留置場があり、『ワーワーと声があるので、裏口から入って誰が捕まっているのか覗きに行った』と、今では考えられない話を当時少年だった古老が教えてくれた。

派出所化反対！天領上下は格が違うのだ！

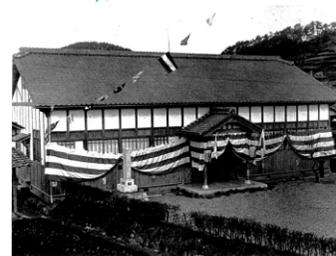
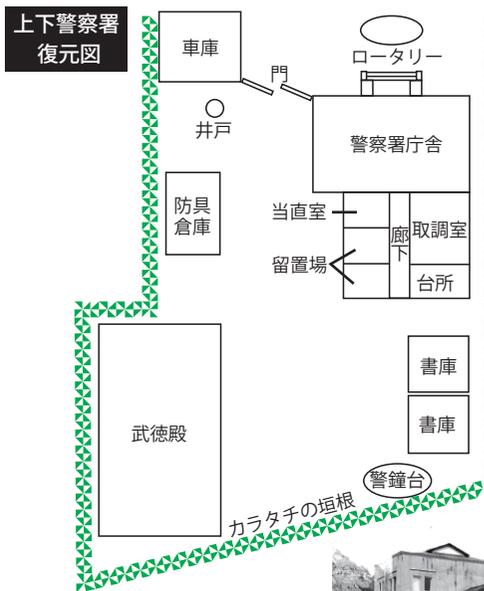
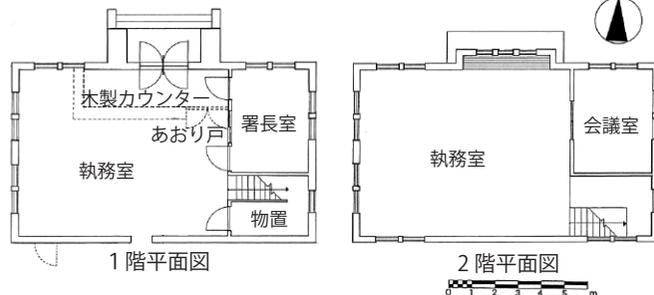
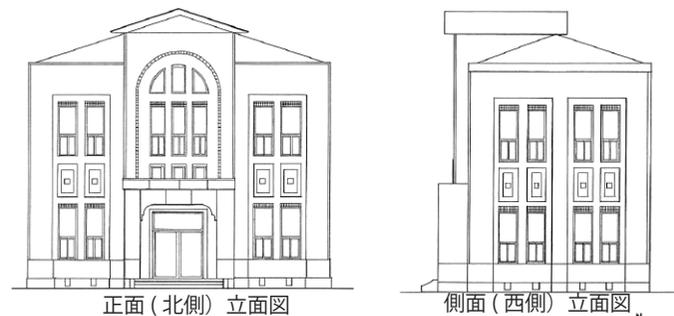
昭和27年日米講和条約発効の頃から、次第に人口が都市に集中化し、犯罪や交通事故の発生が増加、都市部の警官を増やすため警察署統廃合が全国的に進められた。これにより、昭和31年10月広島県では上下、鞆、油木、東城、河内、忠海、八重の7警察署が廃止になったが、上下の反対運動は特にし烈であった。明治以来の伝統ある警察署に対する根強い愛着心と、同年地方事務所が廃止になった矢先で、他官庁の廃止または移転を誘発するのではないかという危惧があり、何よりも天領上下の「格下げ」が許せなかったのだ。そして知事や警察本部長に対し陳情を行っている。

しかしながら上下警察署は府中警察署上下警察官派出所となり、新道路と呼ばれた国道が開通したのに伴い、昭和44年10月に現在地(上下1064-2)に新築移転した。残された旧庁舎の土地、庁舎を昭和45年に上下町商工会が譲り受け、長年商工会館として利用されてきた。昭和57年9月に留置場があった建物や武徳殿が取り壊され、上下町商工会館が新築された際、旧警察署庁舎本体を取壊す案もあったが、反対意見の方が多く解体を免れている。

近代建築遺産としての新たな道のり

平成23年7月には近代の歴史的建造物を後世に幅広く継承していくために作られた『登録有形文化財』(文化庁)に登録。80余年の月日を経て、再び脚光を浴びることになった旧上下警察署庁舎は平成25年から一般公開が始まる。当時のままとはいかないものの、全体的に保存良く、空間的にはおおむね旧状を保っているこの建物を、上下に来たら訪ねてほしい。白壁だけじゃない。昭和モダーンもあるのだから。

(参考文献 広島県警察百年史・上下町史)



武徳殿



警察署庁舎背面の付属設備



書庫